

自分を認める

日本体育大学 非常勤講師
湘北短期大学 キャリアサポート部非常勤職員

島津和代



vol.16-1

平成16年からハローワークの若年者
ジョブサポーターとして小・中・高
校生のキャリア教育に関わり、昨年よ
り大学生・短大生のキャリア教育に携
るようになりました島津和代と申しま
す。各教育現場では、様々な子供や若
者たちが、私たちキャリア・カウンセ
ラーに必要なことは何なのかを提示し
てくれるような気がします。

ここでは一つ、若者らしい悩みを抱
えた女子学生のお話をしたいと思いま
す。

キャリア・カウンセリングを通して
未消化な自分の思いを他者に語りなが
ら、そのことを価値ある経験として位
置付けていったプロセスをお伝えしま
す。

A子さんは、すらりとした長身でハ
キハキと明るい受け答えをする、爽や
かな印象の学生です。彼女の真面目さ
は、学内の就職ガイダンスの受講態度
や振返りのワークで丁寧に感想を綴る
様子からもうかがえました。就職活動
が始まった頃、浮かぬ顔で来室したA
子さんは、「いつも自己分析がうまく
できません」と話し出しました。A子
さんが持参した履歴書は、輝かしい記
録と、努力がにじみ出るような心のこ
もった表現で、活躍してきた部活動の
様子が描かれており、アドバイスなど

必要ないくらいのものでした。

A子さんは、「ゼミの先生も『この
ことをしっかりとアピールしなさい』
と言ってくれるのですが、どうしても
うまく語れないのです」と俯いてしま
いました。そこで私は、話せる範囲で
部活動のお話を教えてほしいと尋ねて
みました。

バスケットボールが大好きで小学校
・中学校と活躍し、特待生として高校
に入学し、夢を持ち部活動を始めたも
のの、名門校特有の重圧と、特待生以
外の部員との狭間で早くから悩んでき
たというのです。チームの中核として
顧問や監督に期待され、それに応える
よう部長として活躍するA子さんは、
「ついには疲れ果ててしまった。高校
3年生の最後までやり通したにもかか
わらず、達成感が全く感じられなかつ
た」と言います。それでも、「自分が
今まで打ち込み情熱を注いだものは、
バスケットボールに他ならない」のだ
と。

「凄かったね。よく頑張り通した
ね。大変だったでしょうに。この3年
間バスケットボールを楽しむことはで
きたの?」と私が尋ねると、ポロンポ
ロンと大粒の涙を流しながら、

「ずっと苦しくて、ずっと辛かった」
チームのみんなが仲良くなるように

いつも部員にも顧問にも気を配り、
びくびくしていた。自分を応援してく
れている家族にも弱音を吐くことがで
きず、いつも一人だけで抱えていた。
途中でやめたいと思ったが、「自分に
できることがまだ残っているのではな
いか」という思いと、やはりバスケッ
トボールが大好きだからという思いが
それに勝り、何とか頑張り続けたのだ
と言います。

「大変な思いをしたけれど素晴らしい
経験を積んだのね。本当にお疲れ様
でした」の言葉に「こんなのでも、人
に言っていない経験なのですか?」と言
う彼女に、

①人との関わり方スキル

②気遣いのスキル

を思いつくままに書き出してもらいま
した。

見事に、30ほどの項目があつという
間に完成。

けなげな自分をキチンと認めてあげ
る作業を終えたA子さんは、

「今思つて顧問も他の部員も当時は
気付かなかつたけれど同じ方向に向か
っていたんですね」

結局、私は、履歴書を「文字も添削
することなく、「自信を持って語りたい
」と笑顔で退室するA子さんの目映
い背中を見送りました。